

2021年3月期第2四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2021年3月期第2四半期決算説明資料

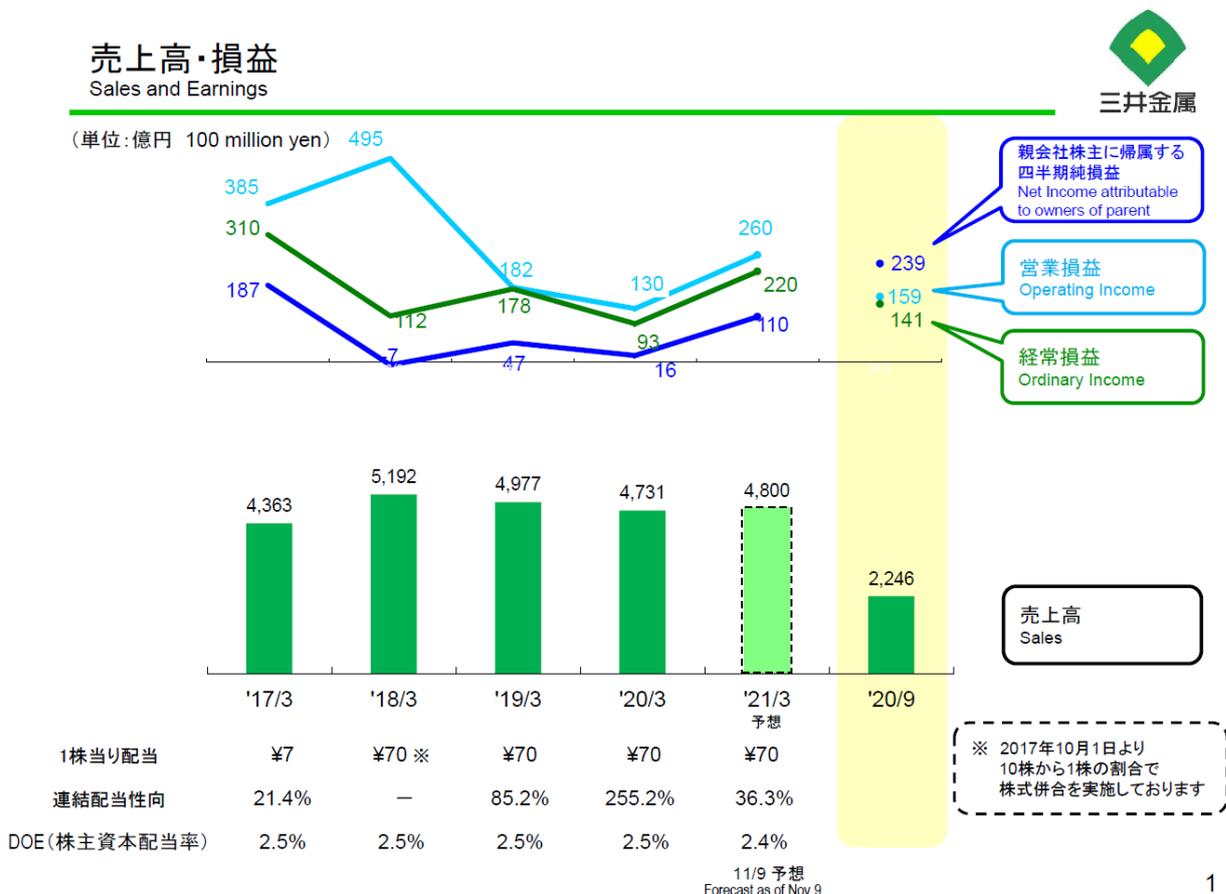
[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=I6j07Qhg%2fYs%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=I6j07Qhg%2fYs%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=I6j07Qhg%2fYs%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

■ご説明



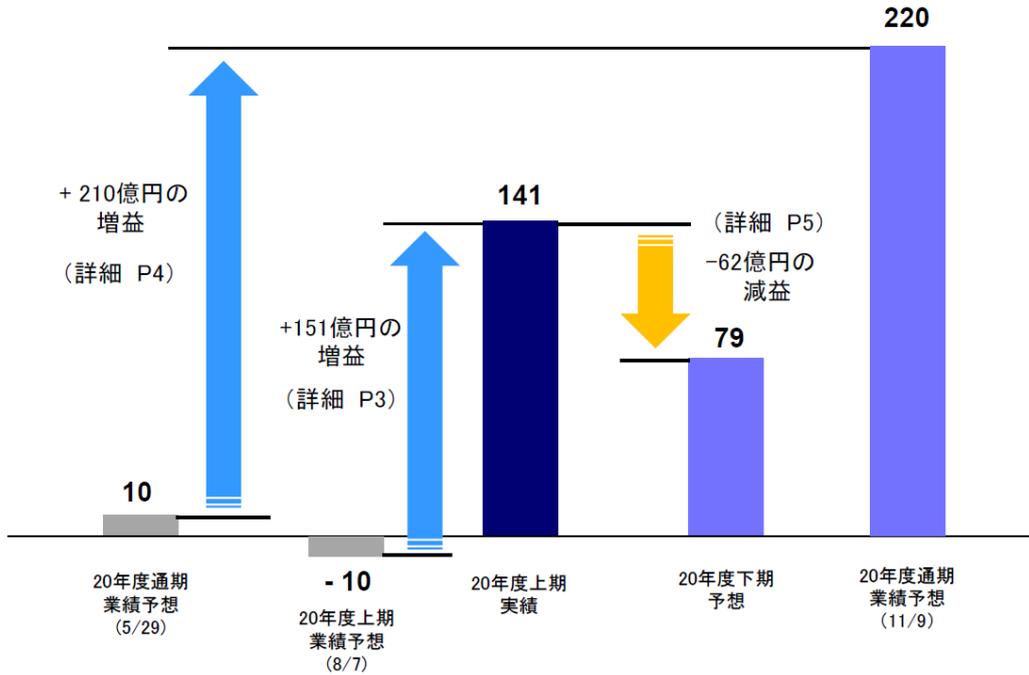
決算説明資料1ページをご覧ください。

・第2四半期累計の売上高は2,246億円、営業利益は159億円、経常利益は141億円、親会社株主に帰属する四半期当期純利益は239億円となりました。なお第1四半期決算時にご説明のとおり、この239億円には銅事業再編による特別利益136億円が含まれております。

・なお、2021年3月期の連結業績予想は、黄色の網掛けの左に記載していますが、売上高4,800億円、営業利益260億円、経常利益220億円、当期純利益110億円と見込んでいます。配当につきましては、これまで未定としておりましたが、ほぼDOE2.5%の水準である1株当たり70円といたしました。

20年度の経常利益は予想比大幅増益を見込む

(単位: 億円)



2

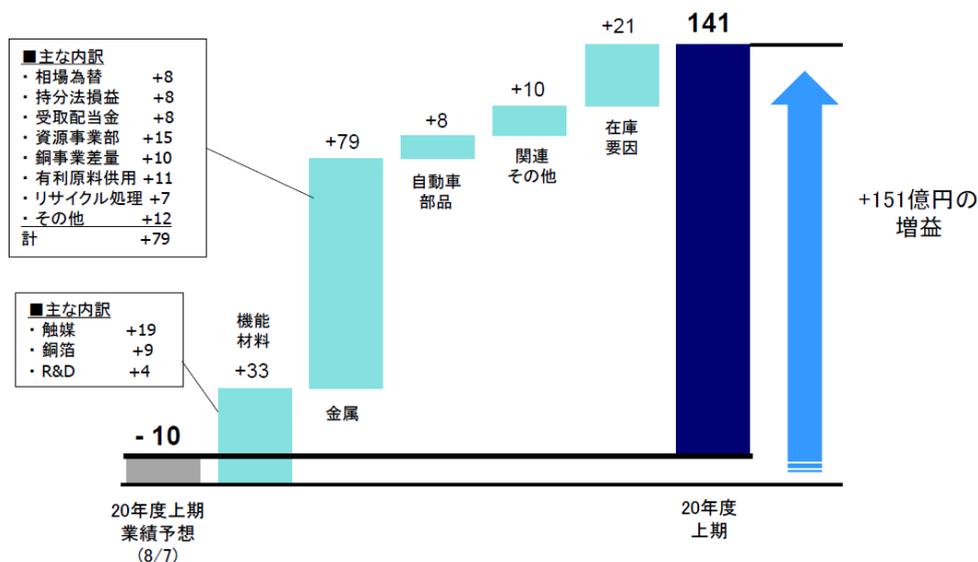
2ページの「20年度経常利益」をご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常利益は、8/7に開示した10億円のマイナスから151億円増益の141億円となりました。また、通期の予想につきましては5/29に開示した10億円から210億円増益の220億円を見込んでおります。一方下期の予想につきましては、上期の実績から62億円減益の79億円を見込んでいます。それぞれの要因につきまして次ページ以降でご説明いたします。

20年度上期経常利益は141億円と業績予想比で+151億円の増益

対上期業績予想(8/7開示)比較

(単位:億円)



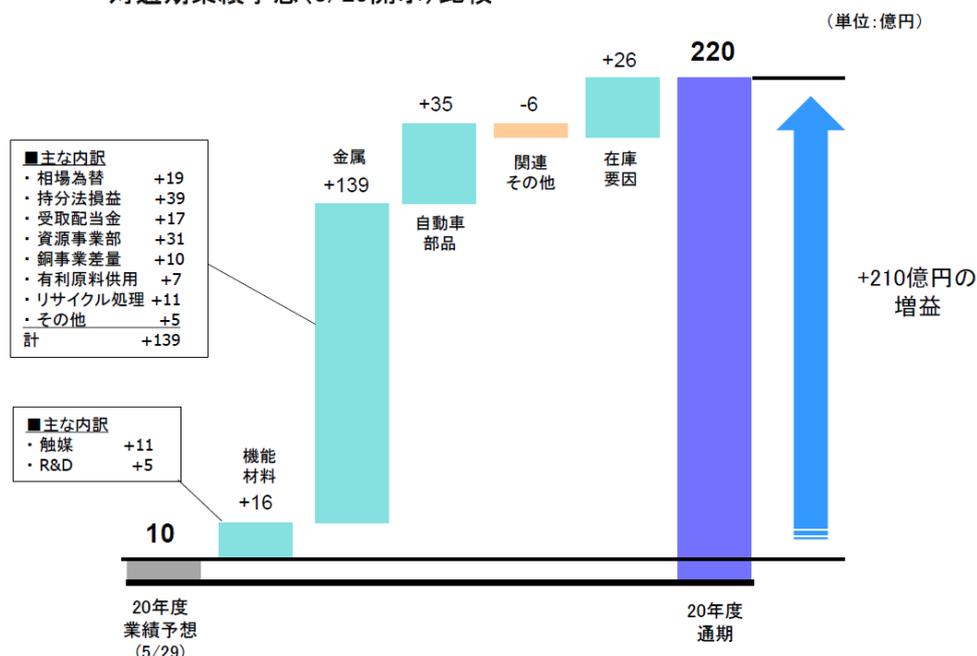
3

まず上期業績の上振れ要因についてご説明いたします。3ページをご覧ください

+151億円の好転のうち、最も影響の大きかったのが金属セグメントです。+79億円上振れましたが、相場が想定よりも高く推移したことや、受取配当金が見込みよりも増えたことなどがその要因です。次に機能材料セグメントで+33億円好転しています。これは触媒事業においてQPズレのマイナス影響が想定より小さかったことや銅箔事業における販売増の影響等によるものです。さらに自動車部品セグメントにおけるコストダウン効果や相場上昇にともなう在庫要因により、予想を大幅に超える利益となりました。

20年度経常利益は 220億円を見込む

対通期業績予想(5/29開示)比較



4

次に通期見直し上方修正の要因についてご説明いたします。4ページをご覧ください。

210億円の好転のうち、こちらも最も影響しているのが金属セグメントです。139億円の増益を見込んでいます。相場の上昇や受取配当金の増加など上期の増益要因が通期においても主な増益要因となっています。

自動車部品においては35億円の増益を見込んでいます。上期同様コストダウンの取り組みが順調に進んでいることが主な要因です。

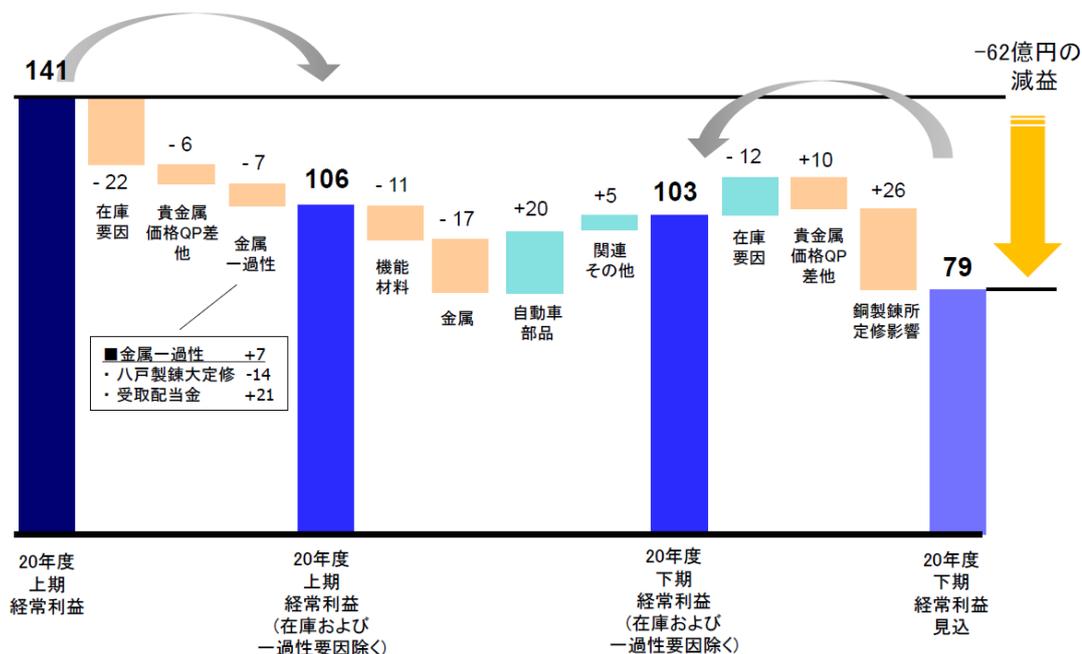
さらには相場上昇にともなう在庫要因の好転も26億円増益サイドに影響し、大幅な上方修正となりました。

20年度下期経常利益見込 FY 2020 2nd half Ordinary Income Forecast



現時点での20年度下期経常利益見込は79億円と上期比で減益を見込むが
発生時期のズレ等の要因を排除すると、上期とほぼ同水準となる

(単位:億円)



5

続きまして上期から下期にかけての減益についてご説明いたします。5ページをご覧ください。

このグラフは上期の決算および下期の予想から発生時期のズレ等の特殊要因を除いた内容を示しています。

一番左が上期の経常利益141億円です。ここには22億円の在庫要因によるプラス効果や触媒の貴金属QPによる影響、さらに金属セグメントにおける受取配当金等の発生時期のズレ等による影響が含まれておりますので、それらを加味すると、上期の経常利益106億円となります。同様に一番右の下期予想79億円から大規模定期修繕等の特殊要因を排除しますと103億円となり、上期と下期の利益水準は同レベルであることを示しています。

機能材料セグメントでは銅箔が季節要因として上期に需要のピークがくることなどから下期にかけて減益となりますが、自動車部品における販売量の回復による影響が大きくプラスに寄与するとみています。

カセロネス銅鉱山の権益譲渡



カセロネス銅鉱山の全ての権益をJX金属株式会社に譲渡することを決定

譲渡の背景

- 事業ポートフォリオの見直し
- 銅価格のボラティリティによる、業績変動リスクの低減

今後の方針

- 銅製錬事業は、亜鉛・鉛事業と連携し、製錬ネットワークの再構築および深化を図る
- 経営資源を、より当社が得意とする分野へ投入
- 資産効率化の観点から、あらゆる資産について再確認し、企業価値の向上に努める

連結業績に与える影響額

	2021年3月期
特別損失	▲200億円

6

続きまして、6ページをご覧ください

本日15時にリリースいたしました、カセロネス銅鉱山の権益譲渡についてご説明いたします。
当社は事業ポートフォリオ最適化の観点から、カセロネス銅鉱山の当社にとっての位置づけについてこれまで検討してまいりましたが、カセロネスの権益を譲渡し、その経営資源を当社が得意とする分野へ配分することが、より当社の企業価値を向上させることにつながる判断し、今回の決定をいたしました。
権益の譲渡にともなう今期業績への影響につきましては、特別損失として200億円を織り込んでおります。
今後も資産効率化の観点から、あらゆる資産について、当社にとっての意味合いを再確認のうえ見直し、企業価値の向上に努めてまいります。

損益計算書 Statements of income



(単位: 億円 100 million yen)

	実績 Results			通期見通し Forecast				
	'20/Q1-2	'19/Q1-2	増減 Difference	2020 今回予想 Forecast	2019	増減 Difference	2020 5/29 予想 Forecast as of May 29	増減 Difference
売上高 Net Sales	2,246	2,381	-135 -5.7%	4,800	4,731	69 1.5%	4,700	100 2.1%
売上原価 Cost of sales	1,836	2,049	-213 -10.4%	-	-	-	-	-
売上総利益 Gross Profit	410	332	78 23.6%	-	-	-	-	-
販売費・管理費 SG&A expenses	251	278	-27 -9.7%	-	-	-	-	-
営業利益 Operating Income	159	53	105 196.9%	260	130	130 99.4%	100	160 160.0%
営業外収支 Non-operating income/expenses-net	-18	-4	-14	-40	-37	-3	-90	50
経常利益 Ordinary Income	141	50	91 184.2%	220	93	127 136.1%	10	210 2100.0%
特別損益 Extraordinary profit/losses-net	131	-2	133	-38	-35	-2	114	-152
税引前利益 Net Income before income taxes	272	48	224 469.3%	182	58	125 215.0%	124	58 46.6%
税金費用・非支配株主帰属損益 Income taxes & minority interests	33	30	3	72	42	30	64	8
親会社株主に帰属する 当期純利益 Net income attributable to owners of parent	239	18	221 1208.9%	110	16	94 602.3%	60	50 83.3%

7

7ページの損益計算書をご覧ください

・第2四半期累計期間は、前年同期に対し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により自動車部品の販売量が落ち込んだこと等から、売上高は▲135億円(▲5.7%)減少の2,246億円となりました。一方、金属セグメントにおける棚卸資産の在庫要因が大きくプラスサイドに動いたこと等により、営業利益は+105億円(およそ200%)の好転で159億円、経常利益は+91億円(184%)の好転で141億円、当期純利益は銅事業再編による特別利益+136億円等により+221億円好転の239億円になりました。

・通期見通しについては、第3四半期以降の相場を亜鉛2,400ドル、為替相場を1ドル105円で見、経常利益220億円を見込んでいます。

セグメントの業績(1) 機能材料

Performance by Segment – Engineered Materials



(単位: 億円 100 million yen)

	2020 Q1-2	2019 Q1-2	増減 Difference	2020 Q3-4 (今回予想) Forecast	2019 Q3-4	増減 Difference	FY'2020 (今回予想) Forecast	FY'2019	増減 Difference
■売上高 Sales	860	823	37	950	855	95	1,810	1,678	132
■営業利益 Operating income	92	54	38	65	97	-32	157	151	6
■経常利益 Ordinary income	83	52	31	60	82	-22	143	134	9
※実力損益 Real Income	85	74	11	58	87	-29	143	161	-18

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

経常利益の増減説明

['上19→'上20 +31]

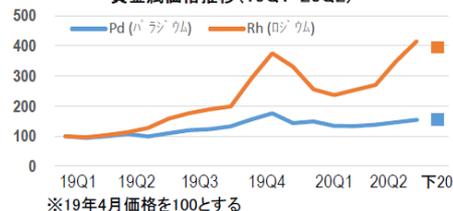
薄膜材料在庫要因 +20
銅箔 +13 (MicroThin™増販他)

['下19→'下20予想 -22]

薄膜材料在庫要因 +7
触媒 -19 (貴金属価格差他)
R&D -7

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・電気自動車向けリチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> ・各種電子部品 ・ガラス研磨材
触媒	 <ul style="list-style-type: none"> ・二輪車・四輪車排ガス浄化用触媒
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> ・高密度パッケージ材料 ・プリント配線基板
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> ・フラットパネルディスプレイ

貴金属価格推移(19Q1-20Q2)



16

続きまして、セグメント毎の状況についてご説明いたします。
最初に機能材料セグメントです。資料の16ページをご覧ください。

・上期は前年同期比で31億円増益の83億円となりました。増益要因としましては、薄膜材料の在庫要因の影響が22億円のマイナスから2億円のマイナスと約20億円好転したことや、銅箔における特にパッケージ向けのマイクロシンの販売が好調であったことがその要因です。

下期の経常利益に関しては前年同期比で▲22億円マイナスの60億円と見込んでいます。マイナスで一番大きいのは触媒事業で、▲19億円の減益と見ております。貴金属価格差による影響が前年は20億円プラスでしたが、今年度は8億円のマイナスで見込んでおり、この差で▲28億円の減益要因となります。一方で販売については二輪・四輪ともに増販を見込んでいますので、そのプラス効果等で約9億円の増益要因となります。

下期の銅箔事業に関しては、マイクロシンの増販による増益はあるものの、在庫の増減によるマイナス影響を見込んでいることもあり、利益的にはほぼ前年並みを見込んでいます。

銅箔の動きに関しては、Q1からQ2にかけてマレーシア拠点が通常操業に戻り、全体としては概ね堅調に推移しました。ただ、通信インフラ向けの銅箔については米中貿易摩擦の影響でQ2にかけて販売数量が減少しました。通信インフラ向けに関してはいつ回復してくるのか現時点では見通すのが難しい状況です。一方、マイクロシンに関しては採用されているスマホメーカーの作り込みの影響によりHDI向けがQ2に販売を伸ばしました。下期は生産のピークアウトが見込まれることから、販売量は減少すると見ています。パッケージ向けは在庫調整の影響でQ2の販売量が減少しましたが、下期は比較的堅調に推移するとみています。

セグメントの業績(2) 金属

Performance by Segment – Metals



(単位: 億円 100 million yen)

	2020 Q1-2	2019 Q1-2	増減 Difference	2020 Q3-4 (今回予想) Forecast	2019 Q3-4	増減 Difference	FY'2020 (今回予想) Forecast	FY'2019	増減 Difference
■売上高 Sales	880	837	43	980	775	205	1,860	1,611	249
■営業利益 Operating income	90	11	79	37	-11	48	127	0	127
■経常利益 Ordinary income	81	8	73	17	-23	40	98	-15	113
※実力損益 Real Income	57	48	9	7	21	-14	64	69	-5

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

金属価格および為替

	'19Q1-2	19Q3-4	'20Q1-2	20Q3-4 Forecast	
亜鉛 Zn	\$/t	2,554	2,256	2,150	2,400
亜鉛 (実効) Zn (Actual)	\$/t	2,551	2,357	2,259	2,456
鉛 Pb	\$/t	1,958	1,943	1,773	1,800
銅 Cu (暦年表示 Q1: 1-3月)	¢/lb	280	265	249	280
銅 Cu (Q1: 4-6月)	¢/lb	270	261	269	280
為替 US\$	yen/\$	108.6	108.9	106.9	105.0
為替 (実効) US\$ (Actual)	yen/\$	108.9	108.2	107.2	105.4

2020年度年間損益感応度(経常損益) (億円 100 million yen)
Sensitivity to ordinary income (for FY2020) フルオープン 予約含む

亜鉛(LME) Zn	±100\$/t	12.3	9.1
鉛(LME) Pb	±100\$/t	2.3	2.3
為替	US\$(yen/\$)	4.9	4.1

経常利益増減分析

	上19 →'上20	下19 →'下20予想
相場・為替	-17	-2
T/O条件(亜鉛)	10	8
たな卸資産在庫要因	64	54
持分法損益	-21	-2
コース	7	1
受取配当金	16	-
その他 ※	14	-19
合計	73	40

※その他の内訳

['上19→'上20 +14]

・日比共同製錬取込み+27、八戸製錬大定修-14 他

['下19→'下20予想 -19]

・日比共同製錬取込み(大定修影響含む)-18 他

続きまして金属事業セグメントです。17ページをご覧ください

・上期は前年同期比で73億円増益の81億円となりました。増益要因として一番大きいのは棚卸資産の在庫要因です。前年度は価格が下落傾向であったためマイナスで計上していましたが、今年度は上昇傾向であったことから、合わせて64億円の増益要因となりました。非鉄相場については、亜鉛・鉛ともLME価格が下落しましたが、日比共同製錬の取り込み効果やコジャワシ銅鉱山からの配当の影響もあり、トータルで大きく増益となりました。

・下期に関しても前年同期比で40億円の増益を見込んでおります。こちらも棚卸資産の在庫要因の影響が54億円のプラスと最も大きな要因となっています。

セグメントの業績(3) 自動車部品

Performance by Segment – Automotive Parts & Components



(単位: 億円 100 million yen)

	2020 Q1-2	2019 Q1-2	増減 Difference	2020 Q3-4 (今回予想) Forecast	2019 Q3-4	増減 Difference	FY'2020 (今回予想) Forecast	FY'2019	増減 Difference
■売上高 Sales	342	461	-119	428	445	-17	770	906	-136
■営業利益 Operating income	-12	-2	-10	10	2	8	-2	1	-2
■経常利益 Ordinary income	-8	1	-9	13	3	9	5	5	0

[三井金属アクト]	(主な用途)
自動車部品 	・自動車用ドアロック

経常利益増減分析	上19	下19
	→'上20	→下20予想
増減販	-51	-4
原価低減	45	11
その他	-3	2
合計	-9	9

18

続きまして自動車部品セグメントです。18ページをご覧ください。

・上期は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりQ1の自動車用ドアロックの販売量が大幅に落ち込んだ影響が大きく、前年同期比で▲9億円減益の8億円のマイナスとなりました。販売減の影響が50億円強ありましたが、大幅なコストダウンを実現し減益幅は大きく縮小しました。下期に関しては販売量は前年に届かないものの、コストダウン効果により9億円増益の13億円を見込んでおります。

■セグメント別販売状況/操業状況(正常需要下の会社想定計画比)

セグメント		業績予想(5/29)	上期実績	下期見込
機能材料	二輪向け触媒	上期 40%減少	上期 33%減少	一部地域に影響あり
	四輪向け触媒	上期 25%減少	上期20%減少	ほぼ影響なし
	電池材料 MH合金	上期 33%減少	上期 25%減少	販売量は5/29予想未達
金属	ワンサラ鉱山	3ヶ月操業停止とする	7月より操業開始も 通常まで至らず	操業度は通常まで至らず
自動車部品		年率20%売上減少とする (Q1:50%減少、Q2以降10%減少)	売上は若干上回るも、 地域差あり	売上は5/29を上回るも、 地域差あり
関連		・年率10%売上減少とする (上期:15%減少、下期:5%減少)	車載向けはほぼ予想通 り	車載向けは5/29業績予 想まで回復せず

19

新型コロナウイルスの影響に関しては19ページにまとめております。

・5/29に発表いたしました業績予想に織り込んだマイナス影響について、機能材料については想定ほどの販売減とはならず済みました。その他のセグメントでは概ね想定通りの影響となりました。下期に関してはまだ影響が残る事業もあると見ています。

営業外・特別損益

Non-operating income/expenses and Extraordinary gains/losses



(単位: 億円 100 million yen)

	上期 1st half			下期 2nd half			通期 FY		
	2020	2019	増減 Difference	2020 今回予想 Forecast	2019	増減 Difference	2020 今回予想 Forecast	2019	増減 Difference
金利収支 Interest income - net	-7	-7	0	-10	-7	-3	-17	-13	-4
受取配当金 Dividend income - net	24	11	13	1	1	0	25	12	13
持分法投資損益 Equity in gains/losses	-27	-5	-22	-12	-10	-3	-39	-14	-25
為替差損益 Forex Exchange gain or loss	-8	-7	-1	0	-15	15	-8	-22	14
その他 Others	0	4	-4	-1	-3	2	-1	1	-2
営業外損益 計 Non-operating income/expenses	-18	-4	-14	-22	-33	11	-40	-37	-3
固定資産除売却 Loss on sale & disposal of Fixed Asset	11	-4	15	-10	-17	7	1	-21	22
有価証券売却損益 PL on Sale of Investment Securities	136	0	136	-4	-8	4	132	-8	140
災害損失 Disaster losses	-3	-1	-2	0	0	0	-3	-1	-2
受取保険金 Insurance Proceeds	5	5	0	0	0	0	5	5	0
その他 Others	-17	-2	-16	-155	-8	-147	-172	-10	-163
特別損益 計 Extraordinary profit/losses - net	131	-2	133	-169	-33	-135	-38	-35	-2

10

少し戻りまして、資料10ページの「営業外・特別損益」をご覧ください。今回発表いたしましたカセロネス銅鉱山の権益譲渡の影響額200億円に関しては、下期予想の特別損益の「その他」の欄にあるマイナス155億円に含まれております。同欄には「保有資産を再確認のうえ見直しする影響」をプラス50億円で織り込んでおります。

持分法損益 Equity gains or losses



(単位: 億円 100 million yen)

	2019							2020							2020 上期 予想 (8/7)
	Q1	Q2	上期 1st H	Q3	Q4	下期 2nd H	FY 2019	Q1	Q2	上期 1st H	下期 2nd H 予想	FY 2020 予想	FY 2020 予想 (5/29)	差異 Diff.	
機能材料 Engineered Materials	1	1	2	1	1	2	4	0	-0	-0	1	1	4	-3	2
金属 Metals	2	-8	-6	-4	-9	-13	-19	-22	-5	-28	-15	-42	-81	39	-35
自動車部品 Automotive Parts & Components	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連 Affiliate Coordination	0	-1	-1	1	1	2	1	-2	3	1	2	3	-0	3	-4
その他 Others	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計 Total	3	-8	-5	-2	-7	-10	-14	-24	-3	-27	-12	-39	-78	39	-37

銅 (¢/lb) Copper	282	277	280	263	267	265	272	256	242	249	280	265	251	13	249
為替 (Yen/\$) Forex	109.9	107.4	108.6	108.8	109.0	108.9	108.8	107.6	106.2	106.9	105.0	106.0	107.0	-1.0	107.3

※銅価格は暦年(Q1: 1-3月)で表示

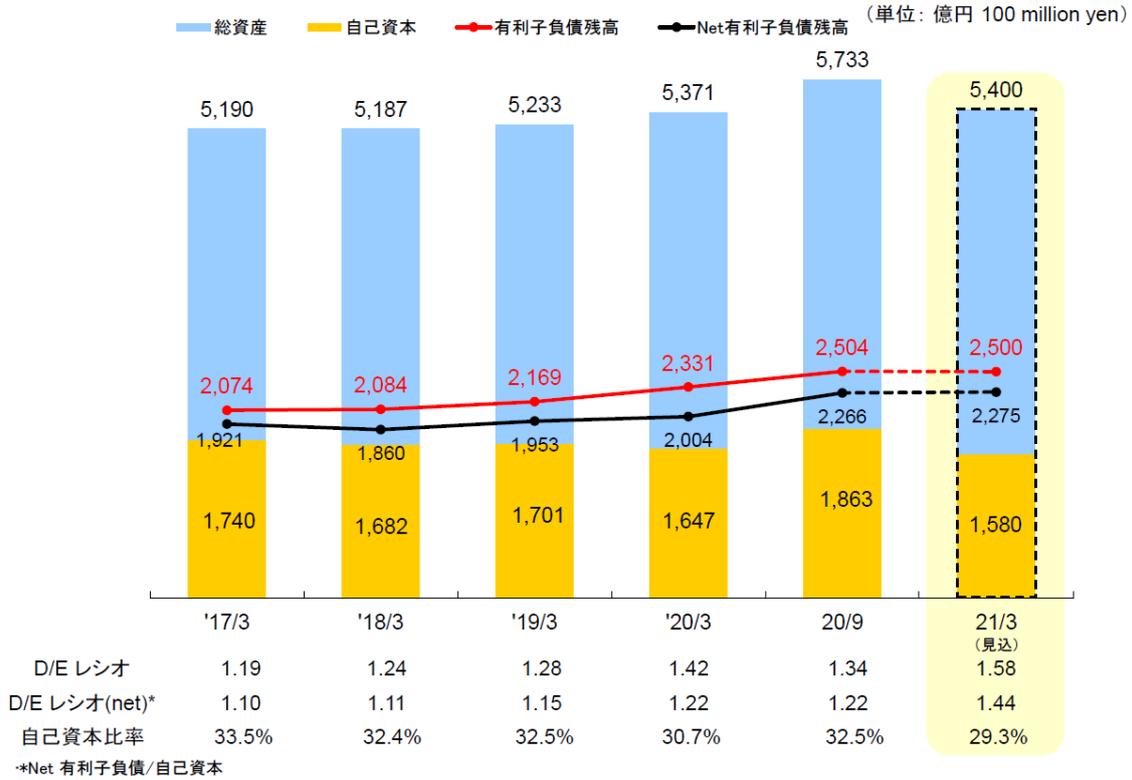
13

「持分法損益」については資料13ページをご覧ください。

金属セグメントのうち、カセロネスはQ1▲22億円、Q2▲3億円、下期▲7億円、20年度▲32億円の見込みです。PPC製錬はQ1はトントン、Q2▲2億円、下期▲8億円、20年度▲10億円の見込みです。

財政状態

Financial Position at Term End



23

最後に「財政状態」についてご説明いたします。資料の23ページをご覧ください。

・カセロネス銅鉱山の権益譲渡に伴う影響はあるものの、年度末の有利子負債は上期末の水準を維持できると見込んでいます。連結自己資本比率は29.3%、ネットD/Eレシオは1.44となる見込みですが、実行面で改善を図っていく所存です。

■ 質疑応答

【機能材料セグメント】

- Q. 触媒貴金属価格QP差の影響額について、Q1、Q2、下期見込の金額を教えてください。
 A. Q1:+5億円、Q2:▲1億円であり、下期は▲8億円と見ている。
 Q. パラジウム、ロジウムが上がってきているのに下期マイナスで評価するのはなぜですか？
 A. インド顧客向けの製品の規格が変わり、パラジウム、ロジウムの使用量が少なくなったため。結果的に2月に買った高い在庫が残っていることが要因。

主要製品の動向
Trends of products



			2018					2019					2020					2020予想(5/29)			2020	
			Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	上期	下期 予想	通期 予想 (11/9)	上期	下期	通期	上期 予想 (8/7)	
機能材料	MH合金 MH alloy	販売量 Volume of sales	100	98	109	103	102	102	105	108	112	107	78	104	91	111	101	82	123	103	95	
		指数 Index																				
	二輪触媒 Catalysts for 2W	販売量 Volume of sales	100	101	90	86	94	93	96	96	101	96	45	119	82	109	96	72	123	97	80	
		指数 Index																				
	インド向け	販売量 Volume of sales	(100)	(101)	(77)	(71)	(87)	(88)	(90)	(83)	(109)	(93)	(36)	(156)	(96)	(130)	(113)	(72)	(150)	(111)	(93)	
		指数 Index																				
	インドネシア向け	販売量 Volume of sales	(100)	(113)	(109)	(121)	(111)	(96)	(105)	(113)	(111)	(106)	(38)	(68)	(53)	(94)	(73)	(72)	(106)	(89)	(47)	
		指数 Index																				
	その他地域向け	販売量 Volume of sales	(100)	(97)	(103)	(93)	(98)	(98)	(100)	(110)	(86)	(98)	(62)	(86)	(74)	(85)	(79)	(71)	(92)	(82)	(74)	
		指数 Index																				
四輪触媒 Catalysts for 4W	販売量 Volume of sales	100	111	131	121	116	128	134	125	130	129	78	157	117	153	135	112	158	135	112		
	指数 Index																					
銅箔 Copper foil	販売量 Volume of sales	千円	2,400	2,460	2,020	1,930	2,200	2,320	2,520	2,530	2,250	2,400	1,860	1,960	1,910	1,950	1,930	2,310	2,410	2,360	2,010	
	指数 Index																					
MicroThin™ (a) + (b)	販売量 Volume of sales	100	116	93	57	92	84	117	102	98	100	120	129	124	112	118	108	106	107	124		
	指数 Index																					
HDI向け MicroThin™ (a)	販売量 Volume of sales	(24)	(42)	(29)	(5)	(25)	(20)	(28)	(15)	(13)	(19)	(17)	(41)	(29)	(22)	(26)	(18)	(19)	(18)	(27)		
	指数 Index																					
PKG向け MicroThin™ (b)	販売量 Volume of sales	(76)	(74)	(64)	(52)	(67)	(64)	(89)	(87)	(85)	(81)	(103)	(88)	(95)	(90)	(92)	(90)	(87)	(89)	(97)		
	指数 Index																					
ITO	販売量 Volume of sales	100	92	99	89	95	87	97	97	95	94	90	79	85	87	86	92	94	93	87		
	指数 Index																					
金属	亜鉛 Zinc	生産量 Volume of production	千t	54	49	50	58	211	56	56	56	52	219	43	56	100	119	219	103	119	222	100
自動車部品	サイドア ラッチ Side door Latches	販売量 Volume of sales	100	100	105	104	102	98	97	95	80	93	58	94	-	-	-	-	-	-	-	
		指数 Index																				
	日本向け	販売量 Volume of sales	(100)	(105)	(119)	(116)	(111)	(109)	(114)	(107)	(129)	(115)	(71)	(118)	-	-	-	-	-	-	-	
		指数 Index																				
	中国向け	販売量 Volume of sales	(100)	(105)	(102)	(92)	(100)	(90)	(91)	(98)	(39)	(80)	(92)	(98)	-	-	-	-	-	-	-	
	指数 Index																					
その他アジア向け	販売量 Volume of sales	(100)	(98)	(107)	(111)	(104)	(97)	(96)	(90)	(83)	(92)	(24)	(68)	-	-	-	-	-	-	-		
	指数 Index																					
欧米向け	販売量 Volume of sales	(100)	(94)	(98)	(104)	(99)	(100)	(92)	(89)	(86)	(92)	(31)	(87)	-	-	-	-	-	-	-		
	指数 Index																					

指数：2018年Q1を100として表示

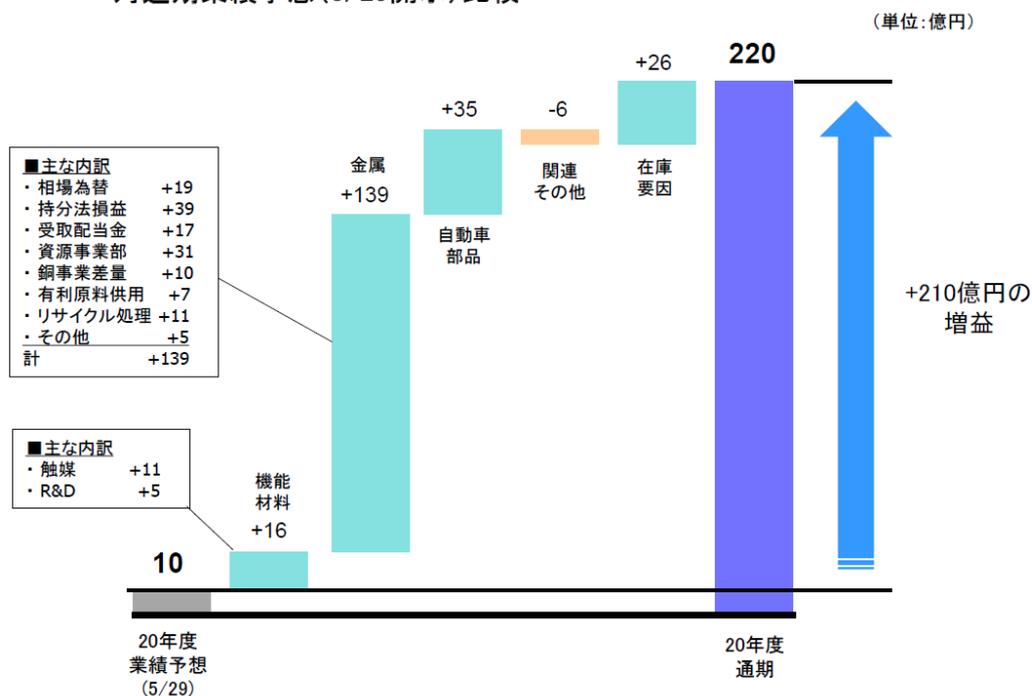
- Q. (決算説明資料P14) 電解銅箔について通信インフラ向けは減少する見込みも、重量ベースのトータル数量では下期横ばいになっている理由およびPKG向けMicroThin™の在庫調整について、スマホ向け、非スマホ向けでどうだったのか、またスマホ向け、非スマホ向けの下期の推移についてどう見ているのか教えてください。
 A. 電解銅箔では通信インフラ向けがQ2から減少しており、中でもハイエンド品の減少幅が大きくなっている。一方フレキ向けはQ2から下期にかけて好調であり、受注が増えている。よって電解銅箔トータルでは横ばい。
 PKG向けMicroThin™は、スマホ向け、非スマホ向けともにQ2で在庫調整はあったが、すぐに終わったという認識であり、下期もQ2の水準をキープすると見ている。
 Q. MicroThin™について、まだ分解していないかもしれないが、北米系スマホの新型モデルでの使用面積や使用層数などが分かればHDI向け、PKG向けそれぞれ教えてください。
 A. 分解した情報は手元にないが、基板面積は大きくなる方向であり、使用層数は昨年と同じくらいと聞いている。以上はHDI向けだが、PKG向けは詳しい情報を持っていない。

【金属セグメント】

- Q. カセロネス権益売却により、フリーキャッシュフローが増えていないが、売却額含めてキャッシュフローへの影響を教えてください。
- A. 損益の影響額として▲200億円の損失を織り込んでおり、大よそ260億円程度のキャッシュアウトを見込んでいる。これに期間損益および財務体質改善策を織り込んで、何とか有利子負債2,500億円レベルを維持する見込みをしている。
- Q. 売却するのにキャッシュアウトが伴う理由は何ですか？
- A. 従来のカセロネスに対する保証債務の部分を一旦貸付金として資金を拠出し、その債権を譲渡することでキャッシュアウトが発生する。
- Q. 今回のカセロネスのスキームについて、権益自体は無償で売却し、保証債務の部分を貸付金化して譲渡することによるキャッシュアウトが発生するが、これによってリスクはオフできたので将来の取込み損がなくなる、という理解で宜しいでしょうか。あと、なぜJX金属はOKしたのか、どのような交渉の経緯だったのか可能な範囲でご解説ください。
- A. 無償ではないが、スキームについてはご理解の通り。権益譲渡により、カセロネスを抱えることによる業績変動リスクをオフにする、これが決定を判断した大きな要因。JX金属との個別の交渉経緯についてはノーコメントとさせていただきます。
- Q. カセロネスの売却について、財務面での効果をどのように見極めて今回の決断に至ったのか、もう少し詳しく教えてください。
- A. カセロネス売却の様々な効果について、1点目は期間損益。平均40-50億円の損失があったが、このマイナスリスクがなくなる。2点目は将来の銅価下落による大きなリスクを回避できる点。今回権益譲渡による大きな損失で一時的な痛みは伴うが、将来的にはプラス効果があると判断した。当社にとって注力すべき分野は大規模な銅鉱山よりも機能材料や事業創造本部から出てくる新たな事業、付加価値の高い事業であることから、今回の決定に至った。

20年度経常利益は 220億円を見込む

対通期業績予想(5/29開示)比較



4

Q. (決算説明資料P4) 上方修正要因のうち、定修含めて一過性要因のものを教えてください。

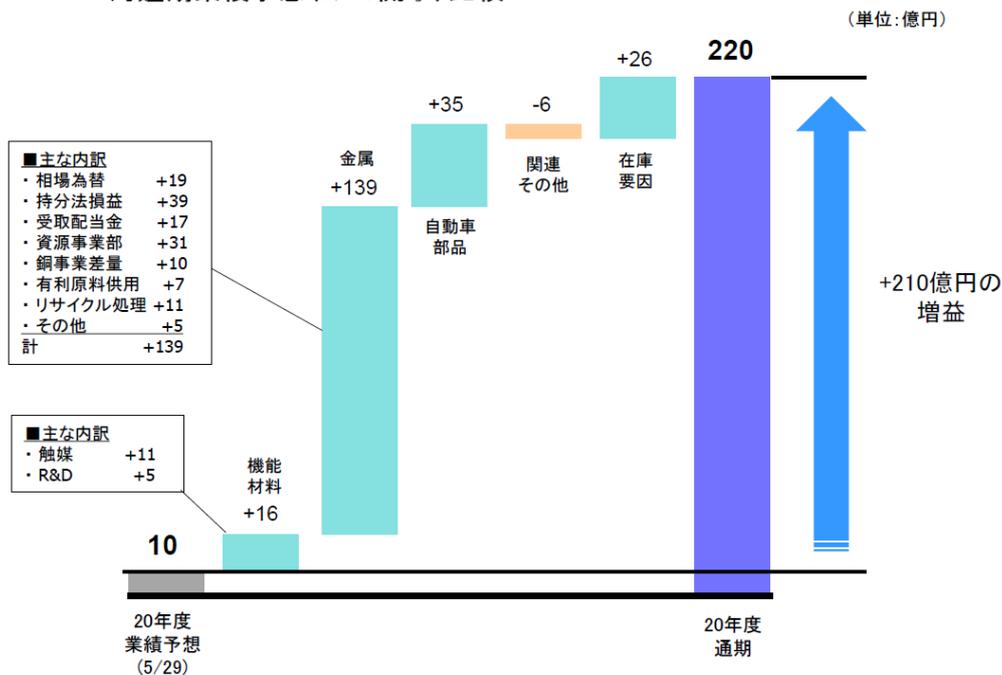
A. 金属の一過性について分けるのが難しいところはあるが、要因のうち、受取配当金は毎年通期では変わらないが、今年は想定より多く、その部分は一過性と言える。また有利原料供用やリサイクル処理などは、たまたまできた、というような一過性の要因と見ることもできる。下期見込にはこれらは含まれていないため、上期同様に下期もうまくいけばその分プラスサイドで出てくることになり、出てこなければ上期の一過性という見方ができると思う。

Q. 日比共同製錬の定修影響▲26億円は何年ごとでしょうか。

A. 2年に1回

20年度経常利益は 220億円を見込む

対通期業績予想(5/29開示)比較



4

- Q. (決算説明資料P4) 金属事業が大きく変動しており、例えば期初計画が実質(在庫要因除き) 経常利益▲75億円が64億円まで上方修正されているが内訳を整理して教えてください。あとQ1の実質経常利益▲18億円からQ2で75億円となっているが、そのあたりの動きもご解説ください。
- A. グラフの内訳の項目の通り+139億円増加しているが、これといった大きな要因がなく、小さな要因が積み上がっている。比較的大きい項目について、例えば持分法損失はカセロネスの好転であり銅価上昇が大きい。資源事業部の好転はワンサラ鉱山のコロナ影響が想定ほどではなかったことなどがある。Q1からQ2への好転要因+93億円は持分法損失減少+17億円、ワンサラ鉱山立ち上がりで+10億円強、日比共同製錬の差量増+10億円、八戸製錬の大定修+14億円が挙げられる。
- Q. 元々計画が保守的に見ていたのか、あるいは有利原料増加など操業の実力が上がったのか、一過性と実力という意味でどうお考えでしょうか。
- A. 足元上手くいったのは間違いないが、実力かどうかを見極めるにはもう少し時間が必要であり、Q2で上手くいった項目を下期予想に織り込むのは早計かと思う。

【自動車部品セグメント】

- Q. 自動車部品および二輪触媒関連の数量について、下期はQ2より落ち着いた数値を見込んでいるが、足元の状況や季節要因なども踏まえながら今後の見通しについて教えてください。
- A. 自動車部品および二輪向け触媒はQ2から下期にかけて堅調に推移していくと見ているが、自動車部品ではタイやインドネシア、触媒ではインドネシアが他の地域に比べて回復が遅れており、下振れリスクがある。また二輪向け触媒についてはQ2にインドで在庫積み増しの動きがあったことから、下期の二輪販売台数次第では販売量が変わる可能性はある。

【その他】

- Q. 特別損益で50億円くらいの資産の評価益のようなものをコメントされていたが、それは何かご解説ください。
- A. 50億円の中身は、ただいま現在決定した案件はないが、資産効率化の観点からあらゆる資産を見直している。その中で具体的な項目が何点かあり、50億円レベルの財務体質改善策は織り込めると判断して今回の業績予想に反映させた。

以 上